国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2020年1月20日号
第185号
毎月2回5日・20日発行

発行所
東京都千代田区霞ヶ関2の1の3　国土交通労働組合
電話(03)3580-4244　ＦＡＸ(03)3593-0359
ＵＲＬ：http://kokkoroso.or.jp/
発行者：安藤　高弘
1部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

2020年1月20日　国交労組　第185号（通巻1341号）　昭和37年12月3日　第三種郵便物認可

春闘の季節がやってきた！

官民共闘により全ての労働者の労働条件・生活改善を求めよう！

すべてのなかまが一丸となり20春闘の勝利をめざそう！

すべての労働者の賃上げや待遇改善、地位向上などを求める20春闘のとりくみが全国各地ではじまりました。

国土交通労組は2月2～3日に開催する第9回中央委員会において、大会以降のとりくみの中間総括と、春闘期をはじめとした今後の運動方針について意志統一します。20春闘では、民間労働者との連帯をよりいっそう強め、私たち国家公務員の賃金にも大きな影響を与える民間賃金水準相場を底上げする運動に「なかまのため・自分のため」積極的に結集するとともに、職場内のとりくみも強化して、国土交通労組を強く大きくするための組織強化拡大行動にとりくんでいくことが重要です。

春闘で求める「人間らしく働く」こと

なぜ私たち労働者は賃金や職場環境など労働条件の改善を求めるのでしょうか。それは、いまの働き方やその対価である賃金に対して不満があるからです。日本では憲法25条において「健康で文化的な最低限度の生活」が保障されているものの、社会には低賃金、長時間過密労働が横行し、非正規雇用やフリーランスなどが増え、不安定な生活を強いられている労働者が増加しています。

どれだけ働いても生活保護よりも低い賃金しか得られない労働者が増えた結果、年収200万円以下のワーキングプアとされる労働者が約1860万人（労働者人口の約37%）いると公表されています（国税庁調査）。安倍首相は、完全失業率の低下や企業収益の増加を根拠に「経済が好転している」と主張していますが、企業収益は内部留保とごく一部の富裕層に集中し、一般的な労働者の平均賃金は下がり続けています。くわえて、逆進性の高い消費税が増税されたことで家計への負担が大きくなり、多くの国民が普段の食事や外食を控え、貯蓄や老後への備えを重視するようになっています。

20春闘は、すべての労働者が「8時間働けば普通に暮らせる社会」を実現し、経済的にも精神的にも豊かに暮らせるよう、広範な労働者としっかりと手を取り合い、「ひとり一行動」を合言葉に、積極的に行動に参加することが重要です。

国土交通労組はこうとりくむ

国土交通労組の基本的理念は、「国民のくらし・生活を改善する国土交通行政の実現」です。そのためにも職場の「体制拡充」は喫緊の課題です。近年、多発・大型化している災害や公共交通機関の事故に対し、国の責任で国民の安全・安心を確保するなど、高まる行政ニーズへの対応が早急に求められている一方で、相次ぐ定員合理化により、業務や職場の集約・廃止などが行われ、ニーズや負託に充分応えられる体制にはなっていません。

これに対し、真に国民本位の国土交通行政を実現するためにも、多くの労働者・国民の賛同を得ながら、体制拡充を強く求めていく必要があり、当局への追及を強化することはもちろん、世論構築の運動をすすめなければなりません。

春闘のとりくみを民間労働者の賃金闘争とだけとらえるのではなく、私たち公務労働者も含めた、すべての労働者のたたかいであることをあらためて認識し、全国各地で行われている、地域に根差したとりくみに国土交通労組からも結集し、官民共闘のとりくみを広めていくことが、きわめて重要です。

公務職場と春闘

日本では4月から新年度となり、会計年度が切り替わります。公務職場では前年夏から秋にかけての人事院勧告や昇格、定員に関する闘争が中心ですが、定期昇給制度のある民間企業では新年度に賃金が切り替わり、定員などが見直されます。

このため民間の産業別労働組合が全国の幅広い労働者、国民と共闘し、春の時期に経営者や使用者と対峙して賃金改善や職場環境の改善を実現する運動を春季闘争、略して春闘と呼んでいます。

一つひとつの積み重ねが重要

世論を巻き込み、要求実現をめざそう

春闘期は、賃金を中心とした労働条件改善の集中的なとりくみの期間ではありますが、要求前進は一朝一夕で実現できるものではありません。日常的なとりくみを大切にし、挑戦と反省を繰り返しながらとりくみをすすめることが不可欠です。

要求実現に必要なことは、権力者や当局に直接要求を訴えるだけではなく、労働組合が職場の声を代弁する組織であることを職場内外に示し、多くのなかまがそのとりくみに結集して世論をつくり上げていくことが必要です。そのためにも、まずは職場にしっかりと目をむけ、職場のなかに困っている人、悩んでいる人がいないかを丁寧につかみ、労働組合がその人を助けるために何ができるかをみんなで考え、とりくむことが重要です。

4月に多くの新規採用者を迎えるにあたって、職場環境を少しでも改善し、活気あふれる、希望ある職場を自らの手で実現しましょう。

20春闘において、官民共闘を広く大きくすすめていくとともに、新規採用者を中心に国土交通労組を強く大きな組織に成長させていくことが私たちの要求実現につながります。

新たななかまとともに、一つひとつ要求実現にむけ前進していきましょう。

明日へ

正月の目玉のスポーツである箱根駅伝で、今年は青山学院大学が2年ぶりの優勝を果たしました。かつて予選会さえ通過できないチームが考えるチームになり、選手が自信を持ってレースに挑み、笑顔で走り結果を出しました▼監督は、部員を「相談できる人」に育て、問題や疑問があればミーティングで吐き出す、次にむけて何をすべきかを話し合うようにし「自分で考え実行できるチーム」にすることでチームを強くしました。もちろん、華やかな結果の裏には不断の努力があり、勝つために一人ひとりが貪欲に練習し、泥くさいことを積み重ねています。また、駅伝人口を増やすために、楽しいイメージを与えることも心がけています▼労働組合においても、自分で考え実行していくことが必要だと思います。要求実現にむけなかまと相談し行動していく、なかまを増やすために楽しいイメージも与えていく。うまくいかないことがあっても日々の積み重ねが必要です。そのことが、次の世代に襷をつなげていくのです▼箱根駅伝を見て走りましたが、得られたものは筋肉痛でした。もっと考えて走りたいと思います（TT）